

# 牛久：学校周辺に見る自然

第32号 ひたち野うしく小学校(みずべ公園)

2019年3月3日発行

く みずべ公園で、生き物たちの冬ごしのくふうを観察しよう ②昆虫・クモ >

1/28(月)29(火)、ひたち野うしく小4年生とのみずべ公園、冬の生きもの観察。今回は、虫です。



まずは、卵で冬を越すもの。カマキリの卵のうがありました。ハギの枝にはオオカマキリの卵のうが、木の枝や幹にはハラビロカマキリの卵のうが見つかりました。生活する場所によって、産卵場所も違うのですね。ジョロウグモの卵塊は、やはり今年は少ないですが、いくつかの幹や葉に産まれていました。



ハギの枝にオオカマキリの卵のう(上2枚)。枝や幹にハラビロカマキリの卵のう(左下3枚)。ジョロウグモの卵塊(右下2枚)。



マイマイガでしょうか、ガの卵塊らんかいもありました。マイマイガはほぼ10年ごとに2～3年間の大発生をくり返すと言われていて、この「学校周辺の自然」をけんさく検索すると、みずべ公園では2013年頃ころに多く見られていたようです。ただし、他のガのまゆやさなぎなどもあまり見かけなくなってきましたので、何か別の要因があるのかもしれません。

**マイマイガ?の卵塊(らんかい)。10年ごとに大発生するという。**



**オオミノガ(左)とミノガ(右)のみの。**

ミノムシもいましたが、やはり今年は少ないです。ミノガとオオミノガでした。



イラガのまゆも、少なくなりました。みずべ公園では、なかまのヒロヘリアオイラガが以前はたくさん見られ、冬にはまゆもたくさん見つかりましたが、何が原因なのでしょう。

かわって、よく見かけるようになったものもいます。チョウのアカボシゴマダラやツマグロヒョウモンなどの話しは何度かしましたが、今年目についたのは、イセリヤカイガラムシ。白いのが成虫で、赤茶色ようちゆうのが幼虫せいちゆうです。つまり、成虫と幼虫で冬を越こします。ミカンの害虫がいちゆうで知られますが、いろいろな木について汁しるすを吸います。この日はハギの枝えだについていました。

幼虫ようちゆうが、たくさんでかたまって冬を越すのもしましたね。毎年、冬の観察では話題になる、ヨコヅナサシガメです。グロテスクな姿で悪者のように見えますが、じつはサクラの葉はを食べる害虫がいちゆうを退治たいじしてくれる、ありがたい虫なのです。もちろん、捕まえようとつかんだりすれば針はりのような口先を突き刺つされ、かなり痛いいたそうですし、害虫がいちゆうにとっては恐ろしい敵てきなのですが、いろいろな角度からながめてみることも大切たいせつですね。

**イラガのまゆ(上)とイセリヤカイガラムシ(下)。**





アカメヤナギの樹木名札のうらで、かたまって冬越ししていたヨコツナサシガメ(左)とその一部拡大(右)。



葉についていた綿のようなまゆについて、何人かに聞かれました。これは、コマユバチの仲間のまゆで、中にはたくさんのさなぎが入っています。モンシロチョウを育てていて、幼虫の腹を食いやぶって別の小さな幼虫がたくさん出てきたのを見た人もいますが、あの寄生バチと近い仲間です。

コマユバチのなかまのまゆ。中には、たくさんのさなぎがいる。



まゆといえば、こんなのもありました。きれいな緑色のまゆが、イヌシデの枝にぶら下がっていましたが、これはウスタビガというガのまゆで、秋に羽化するので中は空っぽです。冬には葉が落ちて目立ちませんが、さなぎの時期には葉にかこまれていて目だたないのですね。「落ちない」ので受験のお守りにされることもあるそうです。

ウスタビガのまゆ。中は、からっぽ。



樹木名札のうらで成虫越冬するクサギカメムシとクモ(左)、土中で越冬しているはずのコガタリハムシ(右)。

成虫で越冬するものも、いました。クヌギの樹木名札の裏ではクサギカメムシとクモが、別のクヌギの根元にはコガタリハムシがじっとしていました。コガタリハムシは土中で越冬すると言われますが、出てきてしまっただいじょうぶでしょうか？

【理科支援員：宮内】